

【実践報告】

「教育実習Ⅳ（中・高）」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

准教授 猪 川 優 子
教 授 石 原 義 文
教 授 岡 利 道

1 はじめに

観察実習の位置付けとなる教育実習Ⅳは、教育実習Ⅴ・Ⅵ（本実習）に臨むにあたり、実習生としての確かな心構えと教育実践力を養うことを目標とした教職科目である。受講生たちはこの実習を通じて、実習の心構え、観察実習の視点、教育実習の意義や位置付けなどを学修し、自らが取り組むべき課題を明確にしていく。

本年度の実習は、本学附属高等学校と広島市立広島中等教育学校の2校での観察実習を軸に展開した。広島中等教育学校における観察実習は本年度が初めてであり、事前に実習校との遣り取りを重ねながら有意義な観察実習となるよう担当者で協議していった。観察実習では、学内で実施した事前学修を踏まえて、国語コース・英語コースに分かれて現場の授業を観察し、授業後に振り返りを行った。

2 学修の概要

（1）事前学修

ガイダンス及び観察実習の基礎学修をコース共通で実施した。基礎学修では、観察実習の心得や注意事項を理解し、授業観察の視点について学修した。授業観察の視点の学修は、①個人思考、②グループワーク、③グループ発表による情報共有、④全体学修の流れで実施し、様々な視点で授業を観察することの重要性を認識した。また、授業観察記録の記入法について学修した。

続いて、コース別に観察実習の事前学修を実施した。学修は学外の観察実習に向けた取組を主としたもので、国語・英語それぞれの教科特性に応じた授業観察の視点について具体的な教材をもとに実施した。

（2）観察実習①

11月1日（水）に、広島文教大学附属高等学校で実施した。

○実習校に集合

○実習生挨拶、実習校の先生からのお言葉、諸連絡・諸注意

○5校時の授業をコース別に観察

〈国語コース〉1年B組「言語文化」

〈英語コース〉1年C組「論理・表現Ⅰ」

○6校時の授業をコース別に観察

〈国語コース〉1年C組「現代の国語」

〈英語コース〉1年B組「英語コミュニケーションⅠ」

- 授業研究協議会をコース別に実施
- コース別に解散

(3) 観察実習②

11月9日（木）に、広島中等教育学校で実施した。

- 実習校に集合
- 実習生挨拶，実習校の先生からのお言葉，諸連絡・諸注意
- 5校時の授業をコース別に観察
 - 〈国語コース〉1年3組「小論文」，3年4組「漢文」
 - 〈英語コース〉3年1・2組「コミュニケーション英語Ⅰ」
- 6校時の授業をコース別に観察
 - 〈国語コース〉1年4組「書写」
 - 〈英語コース〉4年3組「論理表現Ⅰ」
- 実習校の先生方との交流
- 実習生お礼，実習校の先生からのお言葉，諸連絡・諸注意
- 解散

(4) 事後学修

国語コース・英語コースに分かれて，観察実習①②の振り返りを実施した。

〈国語コース〉

- ・事後学修1：観察実習①の振り返り
- ・事後学修2：観察実習②の振り返り

※いずれも，以下の観点別に個別で振り返りを行い，グループで情報共有・協議し，グループでスライドを作成し，発表・全体共有を行った。

1. 授業者に関する気づき・自分の授業に取り入れたい点
 - 指導の内容 ○指導の技術・態度 ○支援・評価
2. 授業者に関する気づき・より良い方法を考えたい点
 - 指導の内容 ○指導の技術・態度 ○支援・評価
3. 学習者に関する気づき
 - 参考になった点 ○気になった点
4. 学級全体に関する気づき
 - 参考になった点 ○気になった点

〈英語コース〉

- ・事後学修1：指導技術ワークショップ①

1. 観察授業の振り返り
2. Classroom English

英語で授業を行うために必要な知識・技能を修得することを目的とする。
3. 音声指導の基礎と音声指導の実際

英語の音声の特徴（リズム，弱化，短縮など）を理解し，指導に活用する技術を修得する。
4. Small Talk & Oral Introduction

音声への関心を高めるために有効な指導技術の中で，Small TalkとOral Introductionについての理解と指導技術を修得する。
5. 発問の仕方

授業の重要な構成要素である発問とは何かを考える。生徒に主体的で深い学びを促す発問に必要な技術を修得する。

- ・事後学修2：指導技術ワークショップ②

1. J-postlを利用した自己の振り返りを通して，英語の授業に必要な資質能力について学修を深める。

2. 学習指導案の作成

学修してきたこと元に、指導と評価の一体化を意識して、指導案作りを行う。

3. 模擬授業

学修したことを模擬授業に活かし、互いの批評を元に改善を行う。

3 おわりに

本年度はコロナ禍がほぼ収束に向かい、学外での観察実習が通常実施できた。加えて、昨年度より準備を進めてきた広島市立広島中等教育学校での観察実習が実現し、中等教育専攻立ち上げ以来最も充実した実習となった。広島中等教育学校は中高一貫校であり、単校種の学校とは違った在り方を見る機会を得ることとなった。当学校には本学の学生が学校ボランティアとして普段から関わっており、今後も関係を継続していきたいと考える。

昨年度までの課題であった、コース間のつながりを形成することができたのも本年度の成果である。観察実習に向けて共通して修得すべき内容については全体学修で実施し、積極的にグループワークを取り入れ、共通認識をもって観察実習に臨んだ。

コース別の事前学修や授業観察では、教科教育の実践者としての目で授業を捉え、実際の教育現場を多角的に観察し、大学での講義や模擬授業では得ることのできない「生」の授業から多くを学んだ。

事後学修において、コース間交流の機会を設けられなかったことが、本年度の課題である。各コースの成果を生かした深い学びとなるような事後学修を、今後計画・実施していきたい。